オプトアウト文書	単機関研究用
臨床研究承認番号	2-024423-00

作成日：　2025 年 1 月 7 日（第 1 版）

手稲渓仁会病院では下記の臨床研究を実施しております。
本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

1. 研究課題名

特発性黄斑円孔境界形態に関連する脈絡膜構造の変化

2. 研究の目的

特発性黄斑円孔（IMH）は、網膜の中心部である黄斑に孔が開いてしまう病気です。これまで、眼の中のゼリー状の物質（硝子体）と網膜の間の異常な引っ張り合いが原因と考えられてきましたが、最近の研究で、黄斑に栄養を送る役割を持つ脈絡膜という組織の変化も、この病気の発症に関係している可能性が指摘されています。 過去の研究では、IMH では脈絡膜の血流が低下したり、脈絡膜が薄くなったりすることが報告されています。私たちの過去の研究でも、IMH の脈絡膜の構造変化が、手術後の視力回復と関連している可能性を示唆する結果が得られました。さらに最近では、IMH の円孔縁の形（境界形態）が、手術後の視力や回復に影響を与えることが分かってきました。縁が滑らかな「smooth」な場合は、比較的良好な経過をたどる傾向がある一方、縁が凸凹した「bumpy」な場合は、視力回復が良くないリスクが高いと考えられています。

本研究では、IMH の円孔縁の形が「smooth」な場合と「bumpy」な場合で、脈絡膜の構造にどのような違いがあるのかを比較します。この比較を通して、IMH の病態生理と、手術後の視力予後がどのように関連しているのかを解明することを目指します。

3. 対象となる方

2019 年 6 月～2024 年 8 月に当院眼科で硝子体手術を受けられた方

4. 研究に用いる試料・情報の種類

1)患者背景（年齢、性別、合併症、既往歴、初回診断日）
2)視力、屈折、眼圧、眼軸長、光干渉断層計、スリットランプ検査、眼底検査の結果
3)手術方法

5. 試料・情報の利用方法

上記項目を、手稲渓仁会病院 視能訓練室に集約して解析を行います。いずれも、診療の中で得られたものであり、この研究のために患者さんに新たな検査を行ったり、経済的負担をかけたりすることはありません。

6. 研究期間

実施許可日～2026 年 12 月 31 日

7. 個人情報の取り扱い

本研究で利用する情報等からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、学会や雑誌等で研究成果が発表されます。取り扱う情報等は、研究責任者が責任を持って厳密に管理します。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

オプトアウト文書	単機関研究用
臨床研究承認番号	2-024423-00

また、情報等が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
手稲渓仁会病院　医療技術部　視能訓練室　　担当視能訓練士　遠藤弘毅
〒006-8555　札幌市手稲区前田 1 条 12 丁目 1-40
TEL：011-681-8111（代表）　FAX：011-685-2795

研究責任者：手稲渓仁会病院　医療技術部　視能訓練室　遠藤弘毅